

神奈川県立金沢支援学校 学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立金沢支援学校 第2回学校運営協議会・学校評価部会・学校設置部会		
開催日時	令和7年10月22日(水)		
開催場所	金沢支援学校 会議室		
(役職名)	令和7年度金沢支援学校 学校運営協議会委員10名(本校校長を含む)		
出席者	令和7年度金沢支援学校 学校運営協議会事務局教職員12名		
次回開催予定日	令和8年2月25日(水)予定		
問い合わせ先	金沢支援学校 副校長 川島 結子 電話 045-770-0456 Fax 045-775-4121		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	内容: 令和7年度金沢支援学校 学校運営協議会委員10名から学校運営に係る1について承認をいただきました。2について事務局から説明し、ご意見をいただきました。 1 学校評価部会 令和7年度学校目標(中間評価) 2 学校防災部会、切れ目ない支援部会		
会議資料	資料1 1年間の目標(中間評価) 資料2 学校防災部会 資料3 切れ目ない支援部会		
議事録	<p>会長挨拶</p> <p>学習指導要領改訂が数年後にあります。それまで現行の指導要領も大切にしないといけないところです。本日は時間までよろしくお願ひいたします。</p> <p>学校長挨拶</p> <p>前回の協議会でご意見いただき可能なものに迅速に取り組みました。例えば学校の二次元コードを学校だよりや校門横の掲示板に貼り付けました。スクールバス乗車中に発災した場合の防災用品について、スクールバス7台分(+α)の防災用品を寄贈いただきました。本日は次第のとおり中間評価をすすめていきます。アイデアをいただければ幸いです。</p> <p>1 学校評価部会</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 肢体不自由教育部門(小中高) <ul style="list-style-type: none"> 校内研究の報告、専門性向上のための研修の報告 (2) 知的障害教育部門 小学部 <ul style="list-style-type: none"> I C T活用研修と授業実践の報告 (3) 知的障害教育部門 中学部 <ul style="list-style-type: none"> 専門職との連携についての報告 (4) 知的障害教育部門 高等部(本校) <ul style="list-style-type: none"> 地域との協働活動と進路指導のための職員研修の報告 (5) 横浜氷取沢分教室 <ul style="list-style-type: none"> 地域での実習と横浜氷取沢高校文化祭の報告 (6) 教務グループ 		

学校研究についての進捗とカリキュラム変更の取組の報告

(7) 指導健康グループ

グループ内各チームにおける情報共有、職員への周知についての報告

(8) 総務グループ

会計管理の合理化と業務アシスタント活用の報告

(9) 連携支援グループ

グループ内各チームの活動とセンター的機能を発揮した報告

(校長補足)

全校でのカリキュラム見直しにより下校時刻を早める

業務改善により生じた時間を教育活動およびその準備に活用

業務アシスタントの有効活用による業務改善

●委員より意見

C委員：働き方改革は療育センターでも課題となっている。スピード感をもって変革していく必要があると考えることができた。

会長：下校時刻を早めて作った時間をどう使うのかが課題となるだろう。業務アシスタントへの仕事を回すことはよい働き方改革になる。

校長：前任校の取組で減らしたところに何か入れるのではなく、何も入れないことも有効であった。

B委員：3つお話したい。1つめは教員の実務研修 積極的に使ってもらいたい。2つめは雇用部会の出張講演を積極的に利用してほしい。3つめは自力通学のできない生徒の実習も対象者がいれば出してほしい。

D委員：肢体不自由教育部門の校内研究の発表をみたが、中間評価のスライド中に活動内容を入れ込んでくれるとありがたい。

E委員：本校の学校運営協議会との比較して各部門の報告をする方式はいいなと感じた。学校のことを理解しやすい。

F委員：文化祭を見て生徒の成長を感じる。防災について準備が重要である。

G委員：放水訓練を支援学校から訓練で見るなどは自治会としても有効活用である。高齢化が進む中で子供たちが来て交流することは大切なことである。

(事務長より、事業契約についての回答)

B委員：学校運営のコストを下げる考えは必要。

2 学校防災部会、切れ目ない支援部会

(1) 学校防災部会

これまでの取組の報告

防災物品寄贈の報告

今後の予定として黄色いバナナ活動 ソーラー蓄電器購入予定 備品展示

B委員：教室内物品の転倒防止については早期に行えるようにしたいところ。

C委員：夏の津波警報時は大変だった。防災食の在り方も考える必要あり。

校長：先日の防災フェスタで防災食のクオリティがあがっていることを感じた。

H委員：防災はPTAも参加している。いろいろつながりができること大切。

(2) 切れ目ない支援部会

アンケートまとめ報告

地域との連携強化、持続可能な活動、支援者の育成
学部研究の地域に出ることについては次回概要報告
地域に出る意義を教員が意識すること
支援者の育成についてアイデアをいただきたい。

●委員より意見

B委員：シーサイドライン周辺の特例子会社5社での会社見学なども有効
教頭：進路先を広げることは縦の支援につながる。他にもこんなことやるといいのではというアイデアがあればメールでご意見いただきたい。

会長挨拶

研修をたくさんやっていることがわかる。さまざまな研修が行われ、授業に活かすということはよいこと。あわせて、センター的機能を充実させようとも素晴らしい。まず地域にでることが大切である。中間評価を生かして、息切れしないように年度末までがんばってほしい。

委員のみなさん意見をありがとうございます。

以上